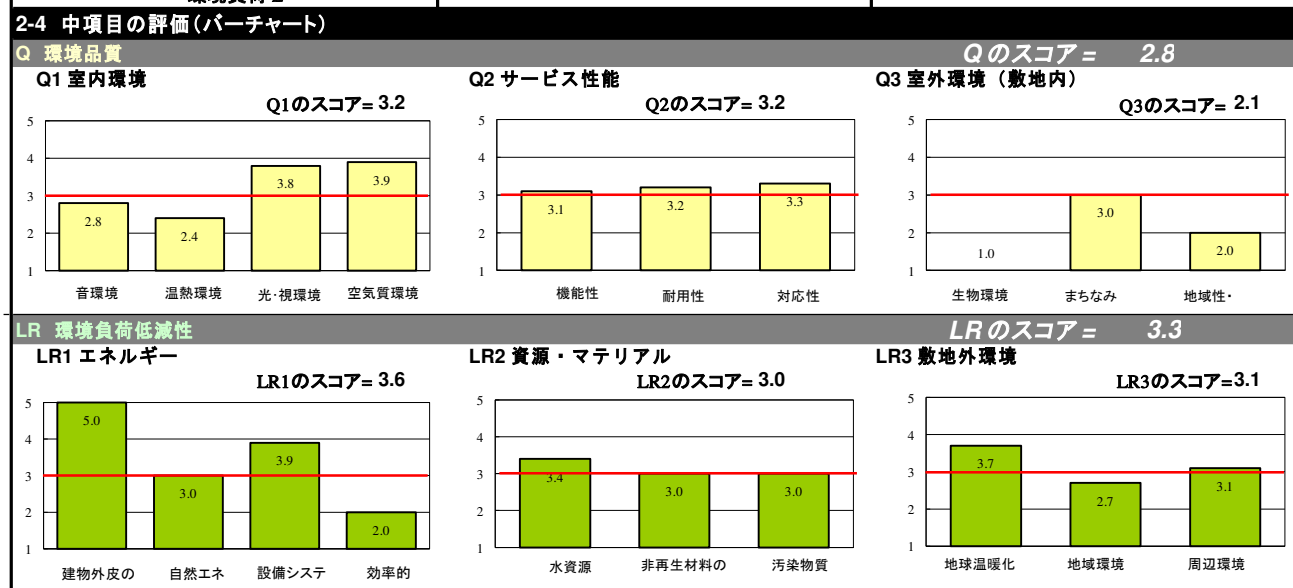
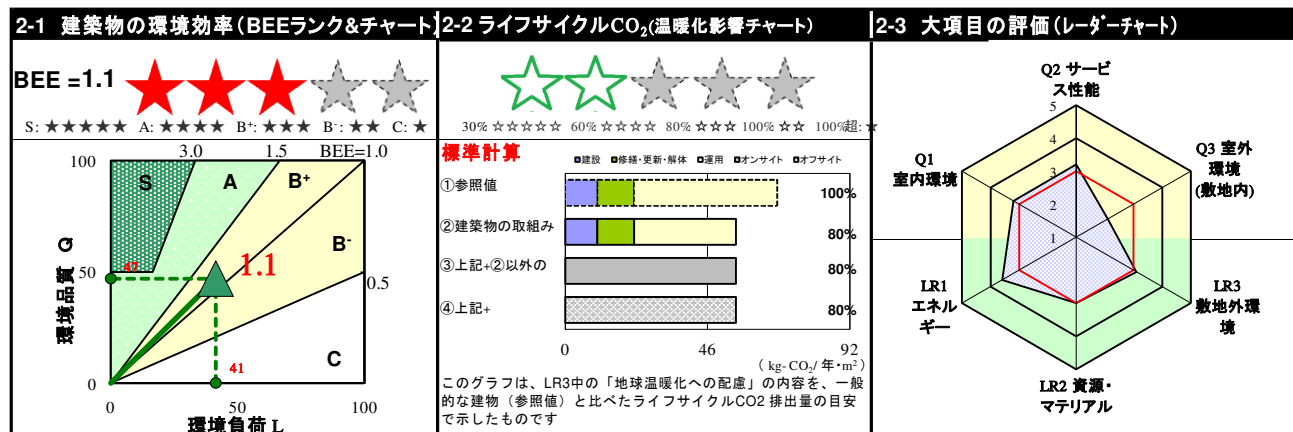


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	学校法人大阪学院大学校舎建築工	階数	地上3F、地下0階
建設地	大阪府吹田市岸部南	構造	S造
用途地域	第1種住居地域、準防火地域	平均居住人員	900 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年7月 予定	評価の実施日	2024年10月25日
敷地面積	1,680 m ²	作成者	山口修一
建築面積	993 m ²	確認日	2024年10月29日
延床面積	2,939 m ²	確認者	北浦嘉教



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
大阪府吹田市に計画される学校(大学)の敷地内増築計画である。		特になし。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
内装材には全面的にF☆☆☆☆を採用し、また全館禁煙とすることで、空気室環境に配慮している。	耐用年数の長い外装、内装、配管材料を採用し建物の維持管理に配慮している。また、階高や壁長さ比率に余裕を持たせ、フレキシビリティにも配慮している。	景観届を提出しており、外観の色彩や位置の配慮を行っている。また、外観パースを作成して景観検証を行うなど、まちなみに配慮している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
断熱性能の高い建材を採用し、照明にはLEDを採用する等省エネルギーに配慮している。	節水機器や再利用可能部材を使用し省資源に配慮している。	燃焼機器は使用せず、大気汚染防止に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称		学校法人大阪学院大学校舎建築工事							
建設地		大阪府吹田市岸部南							
用途／区分		学校(大学等)							
【評価結果】	CASBEE 総合評価							B+	
①	CO2削減							4	
②	みどり・ヒート アイランド対策							2	
③	断熱性能							5	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分	評価対象外				評価対象外		
④	エネルギー消費性能							4	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分	評価対象外				評価対象外		
								3	
⑤	自然エネルギー直接利用							—	
	再生可能エネルギー	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—		—
	利用施設の導入状況	太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—
	エネルギー消費量の報告							報告しない	
【評価項目】									
項目		評価内容					スコア	評価	
① CO2削減		CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮					3.7	4	
② みどり・ヒートアイランド対策									
生物環境の保全と創出		CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出					1.0	2	
敷地内温熱環境の向上		CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3. 2 敷地内温熱環境の向上					2.0		
温熱環境悪化の改善		CASBEE LR3 敷地外環境 2. 2 温熱環境悪化の改善					2.0		
③ 断熱性能		CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制					5.0	5	
④ エネルギー消費性能		CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化					3.9	4	
⑤ 自然エネルギー利用		CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用					3.0	—	
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。					報告する 報告しない	報告しない	
その他									
先進的技術の導入		技術の名称				考慮事項			
特に配慮した事項									